

地域福祉フォーラム活動支援事業(再助成)活用状況

令和4年度新規再助成一覧

累計再助成数:13

	地域		事務局	交付 決定日	令和4年度 交付決定額	事業の目的及び内容	事業計画
1	佐倉市	臼井地区	臼井地区社会福祉協議会		R4.7.5 100千円	日常生活支援事業「愛の手サポート」は、支えあいと交流で笑顔が生まれ、いきいきと暮らせる地域を目指して活動を積極的に推進、日常生活に支援を必要とされる方に対し地域で支えあえるサポートを実施し地域福祉の一層の向上に努めていきたい。	<1年目> 可能な限りの新型コロナウイルス感染症対策を取りつつ、利用会員、サポーター会員、賛助会員の皆様と愛の手サポートセンターが信頼の環でつながり、地域の中で「誰かに必要とされている」、「誰かの役に立っている」という実感が一層持てるような活動にしていきたいと考えています。 【実施予定の重点活動項目】 ・利用会員、サポーター会員、賛助会員の増員を図る。 ・サポート利用件数の増加を図る(利用会員への御用聞きなど潜在利用者へのアプローチ) ・広報活動(自治会、町内会、地域の高齢者クラブ等で愛の手サポート活動の説明会開催、チラシの配布) ・自治会、町内会、地域包括支援センター、高齢者施設等と相互理解を深め、支えあい活動の円滑な運営に努める。 ・コーディネーター、サポーターの研修。 ・書類の整備(各種マニュアル、手続き書類・管理書類の見直し等)。 <次年度以降> ・利用会員、サポーター会員、賛助会員の増員を図る。 ・サポート利用件数の増加を図る(利用会員への御用聞きなど潜在利用者へのアプローチ、利用会員のニーズの把握とサポート体制の整備を図る。) ・親切丁寧な対応と作業に努める。事故ゼロ、クレームゼロの継続に努める。 ・広報活動(自治会、町内会、地域の高齢者クラブ等で愛の手サポート活動の説明会開催、チラシの配布) ・自治会、町内会、ふるさとづくり協議会、地域包括支援センター、高齢者施設等と相互理解を深め、支えあい活動の円滑な運営に努める。 ・コーディネーター、サポーターの研修。 ・書類の整備(各種マニュアル、手続き書類・管理書類の見直し等)。 ・愛の手サポートセンターの内部業務の効率化を図る。 ・予算の効果的な執行、運営資金確保の検討。

令和3年度新規再助成一覧

累計再助成数:12

	地域		事務局	交付 決定日	令和3年度 交付決定額	事業の目的及び内容	事業計画
1	香取市	本宿地区	本宿地区社会福祉協議会		R3.8.4 96千円	誰もが気軽に立ち寄れる居場所を提供する活動【コミュニティカフェ(仮称)】	<1年目> 一年目の前半(10～12月)は、地区社協広報や社協本会のホームページなどで周知を行い利用者拡大に努め、後半(1～3月)はお茶を飲むだけでなく催し物や講演会なども行い充実させていく。 <次年度以降> 前年度に引き続き、月4回(午前の部・午後の部×2日)で「コミュニティカフェ(仮称)」を実施する。 また、ここで情報を得た生活課題や福祉ニーズは、生活支援体制整備事業に繋げていきたい。 この「コミュニティカフェ(仮称)」で生まれるであろうグループ(仲間)には、そのグループによるサロン立ち上げを仕掛けていきたい。
2	匝瑳市	共興地区	共興地区社会福祉協議会		R3.8.4 300千円	近年の想定を超えた災害時に備えて、共興地区内の防災ネットワークを深め、地域住民への防災意識を高めるとともに、防災への取り組みが地域コミュニティの再構築につながっていくことや、防災をポジティブに考えてもらえることを目的とする。	これまでも、災害時に備えるための取り組みを共興地区社会福祉協議会として行ってきたが、近年は想定を超えた災害が多く発生しており、被害に迅速に対応できるように地区内のネットワークを強化していく。具体的な活動として、防災マップ等の作成による可視化を行うことで、地域住民への防災意識を高めていく。防災への取り組みが地域コミュニティの再構築につながり、防災をポジティブに考えてもらえることを目的とする。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した避難所運営の研修を行っていく。

	地域		事務局	交付 決定日	令和3年度 交付決定額	事業の目的及び内容	事業計画
3	匠瑳市	野田地区	野田地区地域福祉フォーラム実行委員会	R3.9.7	150千円	地域福祉フォーラム設置支援事業を活用したことにより、多くの集いの場が創設できたため、更なる集いの場を創設し、地域コミュニティの構築につながっていくことを目的とする。また、近年の想定を超えた災害時に備えて、防災ネットワークを深め、防災意識を高めていくことを目的とする。	<1年目> 近年は想定を超えた災害が多く発生しており、被害に迅速に対応できるように地区内のネットワークを強化していく。具体的な活動として、模擬防災訓練等を行うことで、地域住民への防災意識を高めていく。防災への取り組みが地域コミュニティの再構築につながることを目的とする。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。 <次年度以降> これまで、野田地区地域福祉フォーラム実行委員会において集いの場の創設に向けた取り組みを行ったことにより、計7ヶ所の集いの場を創設することができた。しかし、このたびの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動が停滞したため、地域コミュニティの再構築を行い、また、新たなコミュニティの構築を目指していく。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。
4	匠瑳市	栄地区	栄地区地域福祉フォーラム実行委員会	R3.9.7	150千円	地域福祉フォーラム設置支援事業を活用したことにより、多くの集いの場が創設できたため、更なる集いの場を創設し、地域コミュニティの構築につながっていくことを目的とする。また、近年の想定を超えた災害時に備えて、防災ネットワークを深め、防災意識を高めていくことを目的とする。	<1年目> 近年は想定を超えた災害が多く発生しており、被害に迅速に対応できるように地区内のネットワークを強化していく。具体的な活動として、模擬防災訓練等を行うことで、地域住民への防災意識を高めていく。防災への取り組みが地域コミュニティの再構築につながることを目的とする。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。 <次年度以降> これまで、栄地区地域福祉フォーラム実行委員会において集いの場の創設に向けた取り組みを行ったことにより、計6ヶ所の集いの場を創設することができた。しかし、このたびの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動が停滞したため、地域コミュニティの再構築を行い、また、新たなコミュニティの構築を目指していく。なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。
5	香取市	東大戸地区	東大戸地区社会福祉協議会	R3.9.7	55千円	深刻化してきた東大戸地区高齢化に対し、地域の公民館等を拠点とした集いの場等を整備し、介護予防および支え合い活動を推進する。	<1年目> 東大戸地区協議体会議を重ねる中で、介護予防の観点から、体操や脳トレ等を定期的に行う「集いの場」を増やそうと動き始めた。その際、直接、畳に座って行うことが困難な高齢者が多く、近隣の小学校からパイプイスを借りてきて開催する集いもあった。そのため、今後の開催に向けて、パイプイスを購入することで、開催日時を柔軟に対応することが可能となり、参加者の着座の負担を軽減でき、高齢者の引きこまりを予防し、参加者促進を図る。 <次年度以降> ○東大戸地区における小地域において、支え合い活動の必要性を理解し、上げていくために、地域の公会堂等において、体操やお茶会を行いながら、ミニフォーラムを開催していく。地域に合わせたペースで開催していき、会場整備に必要なイス、テーブル、感染症予防に必要な備品等を購入する。 ○コロナ感染予防のため、屋外でできる「集いの場」も創っていくこととし、ラジオ体操等を行える場を創る。高齢者だけでなく、学校の長期休暇には子供達も一緒に参加できるような場にするを目標とし、それに必要な会場整備、広報活動を行う。
6	香取市	香取地区	香取地区社会福祉協議会	R3.9.7	100千円	閉じこもりを予防するための地域サロンおよび買い物支援活動を行う。	<1年目> ○買い物に困っている高齢者の買い物支援活動継続のための検討会議を開催し、現在の活動を拡大できるようにする。 ○地域サロン開催に向けた検討会議の開催と活動開始に向けた取り組み。 ○活動に参加してもらえる地域住民を対象に、「活動サポーター養成講座」の開催。 ○活動内容の周知と参加者募集のための広報活動をする。 <次年度以降> ○次年度以降は、買い物支援と地域サロン運営を継続しつつ、活動サポーター養成講座を開催していく。 ○活動を通して新たな課題があった場合は、現在の活動の形を変えたり、新たな活動を創生したりできるように話し合いをおこなっていく。
7	匠瑳市	豊和地区	豊和村づくり協議会	R3.10.6	50千円	夫婦共働き世帯の子供達を対象に、学校教育における学び以外の内容について、子供達の様々な体験が実社会生活に役立つことを目的として、夏・冬・春休みの期間において「こども教室」を実施する。	<1年目> 豊和小学校における「放課後子ども教室」は、夏休み等は休校となるため、保護者より夏休み等に子どもを預かってもらえる場が欲しいという要望があり、豊和村づくり協議会が中心となって「こども教室」を実施することとなった。こども教室では、宿題のサポートの他、「監業体験」「和太鼓体験」「ソーラーカーづくり」等、地域の人たちとの交流を含めた体験活動を行っていく。 なお、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底した上で事業を推進していく。 <次年度以降> 次年度以降引き続き、夏・冬・春休みの期間において、「こども教室」を実施していく。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施を見合わせている高齢者の方々とグランドゴルフ体験、地域探検、農業体験などの活動も、感染状況を踏まえながら実施の可否について検討していく。

	地域		事務局	交付 決定日	令和3年度 交付決定額	事業の目的及び内容	事業計画
8	千葉市	花見川区花見川地区	千葉市社会福祉協議会花見川地区部会	R3.11.4	50千円	地域住民の防犯・防災に対する意識・関心を高めるとともに、地域の連帯感を醸成することを目的に防犯・防災パトロールを推進する。そして、本活動を契機として、地区部会エリア内に設置されている避難所運営委員会の平時の活動の促進を図り、有事の活動に繋げられるようにする。	<1年目> ・地区部会エリア内の町内自治会の防犯活動の取り組みの現状把握と課題抽出 ・平常時の防犯・防災パトロール実施地区の選定(1自治会) ・歳末パトロール(単発)実施地区の選定(3～5自治会) ・選定地区における防犯・防災講習会の開催 ・選定地区における防犯・棒愛パトロールの地域住民への周知、参加者の募集 ・選定地区での防犯・防災パトロール、歳末パトロールの実施 <次年度以降> ・平常時の防犯・防災パトロール実施地区の選定(2～5自治会) ・歳末パトロール(単発)実施地区の選定(8～10自治会) ・選定地区における防犯・防災講習会の開催 ・選定地区における防犯・棒愛パトロールの地域住民への周知、参加者の募集 ・選定地区での防犯・防災パトロール、歳末パトロールの実施 ・花見川地区部会エリアにおける5つの避難所運営委員会の中から活動を促進し、他の委員会の模範となりうるモデル的な委員会を選定。 ・感染症にも配慮した避難所の使用範囲や使用方法、生活ルールなどを見直し、最終的には運営マニュアルの更新作業を実施。
9	八千代市	米本地区	八千代市社会福祉協議会米本支会	R3.11.4	190千円	米本地区の地域共生社会の実現に向け、推進事業として「ほっこりカフェ」の運営及び米本南地区防災訓練の実施	<1年目> ・地域共生社会推進事業として「ほっこりカフェ(共生カフェ)」を設立。特に障害者に対する理解を深めるため、障害のある方に担い手として協力していただく。 ・避難行動要支援者を支えるため、様々な分野の方に集まっていたき、話し合いの場を設ける。また、多くの住民に周知するため「合同防災訓練」を実施する。 <次年度以降> ・ほっこりカフェの運営を通じ地域共生社会について考えていく。 ・次年度以降も、防災意識を高揚させると共に、災害を通じて支え合いのネットワークを拡充していく。 ・米本地区が小中一貫校となるため、新たなネットワーク構築のための話し合いの場とする。
10	香取市	香西地区	香西地区社会福祉協議会	R3.11.4	100千円	認知症予防のための地域サロンを運営	<1年目> ・地域の区民センターを利用したサロンを開催。 ・毎週定期的に健康体操等を行い、無理なく体を動かすことで参加者の介護予防や認知症予防を目的とした活動を実施する。 ・毎月調理実習や視察研修、季節行事等を行い、参加者の活動意欲の向上を図る。 ・近所の区民センターを利用することで、参加者が気軽に出かけられるため、孤立感の軽減や引きこもりの防止となり、生きがいがいつくりにつながる。 <次年度以降> ・前年度に引き続き地域サロンの運営を行う。 ・毎週定期的に行う健康体操に加え、防災に関する講座などを開催し災害時の声かけ・緊急事態のスムーズな対応や地域の防災力向上を図る。 ・気軽に集まれる場所で共に活動する仲間を作ることで自宅以外での自分の居場所ができ、仲間同士がお互いのことを気に掛けることにより、見守り環境の整備と地域の福祉力の向上を目指す。
11	香取市	小見川中央	小見川中央地区社会福祉協議会	R3.12.8	100千円	現在の活動の拡充と新規の見守り事業の開始	<1年目> ・現在実施している1人暮らしの集いの内容に専門職(作業療法士)を講師としてお呼びし、体操や健康講座を追加することで高齢者の介護予防に取り組む。 ・1人暮らし高齢者を中心とした見守り活動の実施。その際に茶菓や弁当を持参し交流を図りながら活動を実施する。 ※元気な高齢者も見守り活動に参加できるように声掛けしていく。 <次年度以降> ・高齢者の集いの場(専門職による介護予防の取り組み含)の継続に加え、福祉教育の一環としてレクなどを通じて地域の小中学校との交流を図れるようにする。 ・見守り活動を継続することで異変の早期発見に努めるとともに、地域のネットワークを構築できるような働きかけを行う。 ・各活動を通して高齢者の活躍の場を増やすことで、地域包括ケアシステムの構築に必要な生活支援と介護予防の取り組みを強化できるようにする。
12	四街道市	四街道北中学校地区	四街道北中学校地区社会福祉協議会	R3.12.8	300千円	児童・生徒の放課後の居場所及び自主学習のできる環境の提供を目的に行う。	<1年目> ・学校や家庭以外の居場所を地域の中につくことで孤立・孤独感の解消をはかり、地域ボランティアとの交流により児童・生徒自身の自己有用感が高められることを目指す。 ・インターネット等を活用し児童・生徒自身が自立して学習に取り組める環境を提供する。 <次年度以降> ・以降の年度も引き続き事業を実施していく。体制が整い次第、開催日数の拡大や内容の充実を図る。 ・食事提供も視野に入れ、子ども食堂的な機能を持たせることも検討していく。